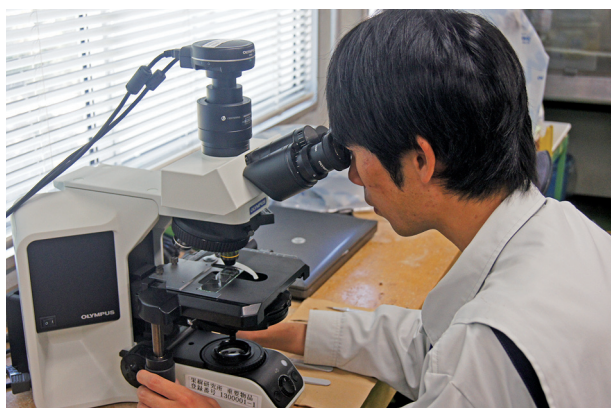


研究室紹介

福島県農業総合センター果樹研究所 病害虫科

福島県農業総合センターが平成18年（2006年）に農業試験場、果樹試験場、たばこ試験場、畜産試験場、養鶏試験場の各試験研究機関と、農業短期大学校、病害虫防除所、肥飼料検査所を再編統合して県中央部の郡山市日和田町に発足開所しました。果樹研究所は果樹の新品種育成や栽培技術の試験研究拠点として、福島市飯坂町の旧果樹試験場に栽培科と病害虫科が配置されました。研究棟は昭和40年（1965年）に竣工した古い建物ですが、2011年の東日本大震災に耐えました。病害虫科のスタッフは、科長1名、病害担当研究員2名、虫害担当研究員2名、技能員2名、農場管理員1名に臨時職員3名を加えた総勢11名です。研究所内の圃場は8ha、病害虫試験圃場はその西端に位置します。スタッフは毎日3~4往復しているため皆日に焼け、健康が自慢です。

研究室のユニークな行事の一つに、11月下旬に行っている「虫供養・病菌供養」があります。もともとスタッフの凶事が相次いだことから、神頼みと言う声が上がリ、近在の名刹、中野不動尊にそろってご祈禱をいただいたことに由来します。以来毎年欠かさず身を切る寒さにも負けずにお参りをしています。霊験はあらたか？これまで皆健康で明るく



顕微鏡による病害診断

研究にいそむことができています。

さて、研究の紹介に入ります。研究タイトルは果樹病害虫の防除法改善、共通防除、生物資源利用の三つになります。

病害では、モモせん孔細菌病に関する研究がメインとなっています。発生要因の解析、感染時期、感染部位の特定、抵抗性検定、品種間差異等の研究項目について研究を進めて

います。そのほかにナシ黒星病、リンゴ褐斑病、ブドウ晩腐病にも取り組んでおり、現行の薬剤に対する感受性低下の現状を把握するために、感受性検定を実施しています。

共通防除は、果樹複合経営が一般化している福島の産地ならではの課題です。樹種ごとの農薬のかけ分けのリスクを改善する技術として、リンゴとモモの殺虫殺菌剤の共通化技術を提案しました。これまでに7割の農薬が共通化されています。

虫害では、従来から性フェロモン剤を利用した害虫防除に取り組んできています。近年ではリンゴのヒメボクトウの性フェロモン剤の開発にかかわりました。また、最も警戒しているのがハダニ類の薬剤抵抗性の発現です。できる限り現地と協力しながら抵抗性検定を実施し、リアルタイムでの抵抗性発現の現状把握に努めています。天敵を利用した防除技術については、土着天敵の利用について研究を進めており、選択性殺虫剤で組み立てた防除体系で殺ダニ剤を確実に削減できることを示しました。



虫供養・病菌供養のお札